

報 告 書

(委 員 会 名) 文教厚生常任委員会

(視 察 日) 令和 7 年 1 1 月 1 3 日 (水)

(視察先都市名) 愛知県岡崎市

(視 察 項 目) 校内フリースクールについて

(内 容) 報告者 山本貴美子・三田村峻

(内容)

校内フリースクールF組について

(理念)

F組の理念は、①適応するのは子どもではなく学校である②多様性を受け入れられる学級③いつでも子ども達を温かく迎える体制④通常学級と同じ、1つの学級としてあつかう⑤教室復帰ではなく社会的自立をめざす。この理念を、全学級に浸透させる。

(現状)

現在、中学校全てにフリースクール（F組）設置が完了し、小学校にも設置を進めている。

定員の中でベテランの教員をF組の担任として配置。それに加え、市独自で採用した会計年度任用職員の支援員を配置し、二人体制。

フリースクールの機能として未然防止を掲げ、対象はフリースクールに来る子達だけでなく、全校生徒であり、F組が存在することで学校全体が多様性を持ち、学校全体がより良いものとなることを目指す。

F組の教室は、くつろげる環境となるようソファや角張っていない机、個室空間などを備えている。

定型的な勉強に限られず、活動は生徒自身で決める。

ゲームや野外活動などで、コミュニケーションの充実を図る。

F組によると断言することはできないが手応え、一定の成果はあり、F組を活用する子ども達のうち、6割が週3回以上学校に来ている。

また、各教科の教員は空き時間に立ち寄り、学習を手伝う。教員も、F組の子どもに教えることで、通常学級での子どもへの教え方に変化がみられ、多様性を受け入れるF組があることで、学校全体が魅力ある学校になってきている。

人と会いたくない生徒のために夜間学級のS組も設け、F組との連携を図る中で、F組に通えるようになった生徒もいる。

(成果（市の事務等の関連等）)

全国平均に比べると幾分割合が低いとはいえ、本市においても不登校が深刻な課題である。しかし、不登校の解決は「既存の学校制度に來られるようにする」ことである必要はないということが示されたように考える。流動的な時代にあって学校教育、学校制度の側に多様性がなければならぬという事実に向き合わねばならないのではないかと。本市においても、子ども達に様々な選択肢が整備されることを強く望む。